

敬老パスの見直し問題

熊谷憲一(共産党)

問 自己負担導入や利用上限額の設定で、敬老の精神を守ることになると考えるのか。

答 福祉乗車証が交付されている障がい者も、七十歳になると、代わりに敬老パスが交付されるが、同様に自己負担と利用上限額を設けるつもりなのか。

答 この制度が持つ敬老と社会参加の精神と意義を考えたとき、将来にわたって継続していくことを可能とすることが最も重要と考え、今回の改正案を提示している。

また、今回の制度変更に当たり、福祉乗車証との調整を検討したいと考えているので、新たな制度の実施について理解してほしい。

道州制特区

五十嵐徳美(自民党第二)

問 道州制というシステムを、どのように評価しているのか。政令市の札幌市としての権限や機能をどのように堅持していくのか、伺いたい。

答 道州制の導入により、住民に身近な市町村が、創意工

夫を凝らした行政を行うことが可能になり、地域住民のニーズに、よりの確に対応することができ、経済・産業の活性化も積極的に進めることができるようになると思う。

一方、地方への事務・権限移譲に伴う財源が国により保障され、地方に新たな財政負担が生じない措置を講じる必要があると考える。

札幌市としては、北海道における道州制特区の検討状況を注視しつつ、指定都市市長会などとも十分連携を取りながら、必要に応じ大都市制度のあり方などについて、道に對して意見を表明していく必要があると考えている。

敬老パス制度

田中昭男(新政クラブ)

問 我が会派では、市長の案に代わる案を提示している。

その内容は、地下鉄・路面電車利用については、健全化計画に採用された敬老パス制度による収入折込金額などを考慮すれば上限設定をせずに済み、また、民間バス利用については、個人とバス事業者の負担を、市の当初案の数字である三千円ずつとし、市の負担については、市負担総額

を10%削減に留めた数字から導かれる額である六千円とし、合計一万二千円をバス利用の年間の上限とする、というものである。

この案を採用するように求めるが、所見を伺いたい。

答 案については敬意を表すが、実現に向けた課題も含まれていると思う。今回札幌市が示した制度案は、市民と交通事業者の理解と協力が得られるものとして検討した案なので理解してほしい。

シックハウス政策

坂ひろみ(市民ネット)

問 公共建築物のシックハウス対策に関する総合的な指針を、全庁の関係部局が連携して取り組み、策定すべきと考

えるが、いかが伺いたい。
答 札幌市では、国からの通知などに基つき関係部局が対応してきた。

今後とも、公共建築物のシックハウス対策の取り組みを強化していくことは必要なことと受け止めているので、先進都市の事例も参考にし、施設の建設や日常管理への配慮など、総合的な指針の策定に向け、庁内連携して取り組んでいきたい。

社団法人札幌市シルバー人材センター

堀川素人(改革クラブ)

問 社団法人札幌市シルバー人材センターの市OB職員の占有率は約45%であり、この問題は、市に関するほぼすべての団体に共通している。派遣およびOB雇用の問題をいかに考えるか。

答 業務執行体制の整備にめどがいった団体などは順次派遣職員を引き揚げ、市OBが就任してきた管理職ポストも、プロパー職員の登用が進んでいる。今後も団体の状況に応じて、プロパー職員の登用が進むよう配慮していきたい。

※プロパー職員は団体に採用された固有の職員のこと。

委員会の主な活動状況

(九月十一日～十月四日)

総務委員会

▲十月一日▽
区分所有マンションにかかわる固定資産税の課税誤りについて、財政局から説明を聴取し、質疑を行いました。

文教委員会

▲九月二十二日▽
札幌市教育推進計画について

て、教育委員会から説明を聴取し、質疑を行いました。

環境消防委員会

▲十月一日▽
「容器包装リサイクル法の見直しを求める意見書」提出を求める陳情の再審査を行い、採択すべきものとしたほか、手稲前田最終処分場の埋立容量に係る手続きについて、環境局から説明を聴取し、質疑を行いました。

厚生委員会

▲九月十三日▽
敬老パス(敬老優待乗車証)制度について、保健福祉局から説明を聴取し、質疑を行いました。

第二斎場整備運営事業の進

ちよく状況などについて、保健福祉局から説明を聴取し、質疑を行いました。

特別養護老人ホームにお

ける虐待問題について、保健福祉局から説明を聴取し、質疑を行いました。
このほか、九月二十一日および十月一日には、本会議から付託された議案について、関係する常任委員会で審査を行いました。